

平成 24 年度 地域懇談会

平成 25 年 2 月 17 日(日)

午前 9 時 30 分～11 時 15 分

中央公民館 2 階 視聴覚室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題

大口町のコミュニティバスを考える

2. 対象地域

中地域(余野・垣田・さつきヶ丘)

3. 懇談会参加者(10 名、敬称略)

余野区 吉田三千子

余野区 近藤清二

垣田区 武田静雄

垣田区 飛沢峯男

さつきヶ丘区 木野 宏

さつきヶ丘区 鈴木 進

議会議員 伊藤 浩

バスサポ隊 吉田和江

バスサポ隊 森垣千穂

町 長 森 進

4. 懇談会進行

地域振興課長 平岡寿弘

5. 司会進行

地域協働部長 杉本勝広

6. 会議記録

地域振興課長補佐 佐藤幹広

地域協働部長（杉本勝広） 改めまして、皆さんおはようございます。皆様方には大変お寒い中、またお忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございます。懇談会を開催いたします前に、携帯電話をお持ちの方はご配慮いただくと幸いに存じます。

私は、本日の司会を務めます地域協働部長の杉本勝広です。よろしくお願いいたします。この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催されるものです。本年度は「大口町のコミュニティバスを考える」と題して、今後のバス事業の方向性について、皆様からご意見をいただく機会としてまいりたいと考えております。

初めに、地域振興課佐藤課長補佐からコミュニティバスについて概要、検討課題の説明を、引き続いて、大口町コミュニティバスサポート隊の方から現在の活動報告を、それぞれパワーポイントを使って説明させていただきます。それではよろしくお願いいたします。

＜スライドに基づき説明＞

地域協働部長（杉本勝広） それでは意見交換会に入りたいと思いますので、パネラーの皆さんは席の方へ移動をお願いいたします。

＜席を移動＞

地域協働部長（杉本勝広） それでは、本日ご参加いただいていますパネラーの皆様の紹介をさせていただきます。

＜参加者を紹介＞

地域協働部長（杉本勝広） これより平岡課長の進行で進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

地域振興課長（平岡寿弘） それでは、座談会を進めさせていただきます。

冒頭唐突ですが、コミュニティバスに乗られたことがある方、挙手をお願いします。

＜挙手あり＞

地域振興課長（平岡寿弘） ありがとうございます。乗られたことがない方も見えるかと思いますが、今日は皆さんとともにコミュニティバスの10年を振り返りつつ、乗ったことのある人、乗ったことのない人も含めて、住民の皆さんと一体となった取り組みによって、このバス事業を大口町の財として今後も継続、活用していける方策を探りたいということで、今日の会を設定させていただいていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

スライドで4点課題を提示していますが、1時間の座談ですので、この4点すべてを対象にすることは難しいと思っています。今日は皆さんから事前にいただいていますアイデアから掘り下げていきたいと思っていますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

そうしましたら、近藤清二さん、「身近な存在」というような表記がありますが、もう少し掘り下げてお願いします。

余野区（近藤清二） やはりバス事業は採算性を考えますと、民間業者が過去撤退した経緯がありますので、そういった採算面を考えると運営は難しいと思います。それを考えないで利用を促すということになると、身近な存在でないと住民の方も使ってくれないということだと思います。皆さんもコンビニエンスストアを利用されると思いますが、あれが進歩した背景は便利であるというのが一番だと思います。そういった便利性を追求するとなると、今のバス停をもう少し増やして自宅から近いところに設置するとか、これは難しいかもしれませんが、好きなところで乗っ

たり降りたりできる乗降性だったり、それから、今の基本的なルートは、駅から町内の外坪とか萩島などへ駅が起終点になっているが、それを少し変えて、主要ルート、例えばショッピングセンター、病院、町の公共施設を巡回するようなルートを設けてもいいんじゃないかと。それから、身近な存在ということで、今はコミュニティバスという名前になっていますが、愛称を住民から募る、あるいは、イメージキャラクターを考えるとか。それから、今バスが走っているということで音楽を流すとか、何かいいかは思い浮かびませんが、音楽を聞くとバスが走っているということが分かるイメージ、それから、大口市という4月の五条川の桜が有名ですので、花見に合わせて柏森駅、江南駅から臨時便を出して花見に来ていただくとか、そういったことを考えました。

地域振興課長（平岡寿弘） 近藤さんから利用を促すと視点でご意見をいただきましたが、それぞれ皆さんに書いていただいていますので、ご発言いただけませんか。

垣田区（武田静雄） 今の近藤さんのご意見、全くその通りではないかと思います。今日この会場にバスを利用して来られた方はいらっしゃるでしょう。

地域振興課長（平岡寿弘） ちょっと聞いてみましょうか。

この会場にバスでお越しになった方はお見えですか。

<挙手者なし>

垣田区（武田静雄） ゼロでしょう。私は、行政が主催するようなこういった会議、民生委員定例会とか、区長会とかいろいろ会議がある。そういった会議に時間を合わせるようなダイヤを組むべきだと思うんです。予算がかかることじゃないと思うんです。利用させることを第一に考えるのであれば、バスで会議に参加できる機会を作るべきだと思うんです。いかがですか、皆さん。

地域振興課長（平岡寿弘） 会議に合わせたダイヤというようなお話です。類似して、飛沢さんも同じようなアイデアですね。もう少し詳しくお願いします。

垣田区（飛沢峯男） 近藤さんや武田さんが言われたように、私も同じような見解です。例えば町でいろんな行事があると思います。運動会や花見などもそうです。そういう町の行事に参加するときに、極力、自家用車ではなくバスを利用するような方法を考えたらいいいと思います。

さつきヶ丘区（鈴木 進） 増車してほしいと単純に書きましたが、今4人のお話の中のことがほとんどですが、増車というより便数を増やすということなんです。今4台で回っています。1台増やすと1,000万円掛かるということだそうなので、1台増やせば1,000万円の赤字ということに解釈するわけです。それで、近藤さんが言われたように、コンビニがまさにそうだと思うんですけども、私はバスに結構乗っているんですが、さつきヶ丘だから駅に行くのは歩いてでも近いんです。例えば南部の方、ヨシヅヤとか町の医院があるが、健康文化センターで乗り換えても次の便がない。北部、中部、南部ルートを山手線のように回るのも一つの方法だと思います。ただ、便数が少ない。あくまで4台でやって三千数百万円の赤字だと…。

それと、4人の人が1日1台を運転されているということでしょうか。

余野区（近藤清二） 私この機会に4ルート全部に乗ってみたんです。土曜日の午後だったものですからもちろん乗客の方は少ないし、便数も少ない時間帯だったので、運転手さんに話を聞いたんです。そうしたら1台で2人、予備の方を入れて3人で運行されているということを聞きました。

さつきヶ丘区（鈴木 進） 1日1台を3人で担当するということですか。

余野区（近藤清二） 2人ないし3人ということだと思います。

さつきヶ丘区（鈴木 進） そうすると、4台だと10人程度ということですね。

私は、臨時便でもいいので増やしてほしいと思うのは、11月に開催されるふれあいまつりのときです。行きは地区から歩いてくるんですが帰りはバスを利用するんです。そうするとなかなかバスがないんです。今は1時間に1本か1時間半に1本しかないんです。その辺を、30分に1本、あるいは45分に1本ぐらいに…。

私の意見は、申し訳ないが赤字覚悟で便数を増やしてもらいたい。それと、花見にしろ、ふれあいまつりにしろ、そういうときには地区から臨時便を出すというような配慮があつていいと思います。

地域振興課長（平岡寿弘） 臨時便とか運行システムについてのご指摘、それからダイヤの話題がありました。冒頭、会議や行事に合わせたダイヤが組めないかということもありました。逆に、ダイヤに行事を合わせることも必要かと思うんですが、町長この辺りはどうですか、会議等をダイヤに合わせるというのも大事なことだと思うんですが、行政の方としては行事の組み方として難しいと思いますが、いかがでしょうか。

町長（森 進） アイデアとしては非常にいいアイデアだと思いますし、私ども役場で仕事をしている人間からすれば、あまり今までのことにとらわれずに、一度チャレンジしてみたらどうだというような意味ではよかったと思います。今まで午前中の会議ですと9時、9時半が定番ですし、午後ですと1時半が定番の中でやってきているので、そういう中で、今のダイヤを見直す中で、あわせて会議の設定時間も考慮できるなら、試行もやってみてはいいのではないかと思います。

先ほど言われた桜の時期の臨時便の話ですね。よく話を聞くのは、ちょうど大口町の五条川沿線のさくらというのは、五条川の桜の中で隠れた名所になっていまして、車に乗って五条川を通ると桜のトンネルの中を通るような状況で、非常にその時期は車の流れもゆっくりと流れていまして、そういう中で一つ面白いチャレンジ、あるいは試行になるのかもしれませんが。五条川沿いをバスに乗ってもらう、あるいは夜間照明の中に乗ってもらうことも、いいアイデアかなとお聞きしました。

地域振興課長（平岡寿弘） チャレンジできるものはしてもいいんじゃないかというようなことでしたけど、やはり改善ということも必要かと思います。

吉田さんはどうですか。

余野区（吉田三千子） 皆さんおっしゃることはもっともだと思いますが、私は余野に住んでいますので柏森駅にも近いし、いろいろなところも便利ですので、まだ一度も乗ったことがありません。これから乗るために考えたことを発表させていただきます。

友達が外坪と河北にいますので、お茶をおごっていろいろな話を聞きました。そうしたら、「便利だけど、買い物しているとついつい身が入って、バスに乗り遅れてタクシーで帰らないかんのだわ」と言われたので、「高くつくで大変だね」と言いました。河北の人は「便利だけど、3回も乗り替えして医者に行かないかん。足元が不便になると、やっぱりチケットをもらったのを使ってお医者さんに行かないかんようになる。学生が乗られる朝はどういうふうでもいいけど、年寄りが医者へ行く時間に丁度いいように2回周りしてくださるとか、なるべく近くの十字路で降ろしてもらえるとありがたい」とおっしゃった。なるほどなあと思った。私は近いから歩いてでも

行けるのでそんなことを思ったこともないが、もうちょっと過ぎると私もその部類に入るので、ぜひそういうことを考えていただけると、昼間の空車が多少なりとも潤うんではないかと思いました。

地域振興課長（平岡寿弘） 冒頭のスライドにもありましたが、バスサポ隊の皆さんがいろいろな取り組みをしておられます。その辺り、吉田さんどうですか。アイデアというか、こちらに書いていただいた部分でも結構ですし、バスサポ隊として何か思うところがあればお願いします。

バスサポ隊（吉田和江） バスサポ隊としては、桜については今ちょっと計画中ですので、皆さん楽しみにしてください。

バスに乗るのはどうも車に乗れないお年寄りの方というイメージがあったのですが、ちょっと方向転換しまして、子育て中のママに声を掛けてはどうかと思いました。チャイルドシートを嫌いなお子さんは結構いると思うんです。泣きわめくのに、車に乗せるのは危険ですし、昼間お父さんが通勤に使われていて、車のないご家庭もあると思うんです。だから、3 か月健診などでバスを使って来たらいいですよというような声を掛けていただけるといいと思います。そうすると、小さい頃からバスに乗る習慣がついて、子どもが「バスに乗ろうよ」とか、「バスに乗って出掛けよう」ということが家族でできるようになったら楽しいかなと思いました。

地域振興課長（平岡寿弘） 今日は行政区の代表の方もお見えになっていただいていますけれども、木野さん、地元の行政区としてどうですか。

さつきヶ丘区（木野 宏） 今、昼間の空車時間帯の活用というようなことで、高齢者のニーズを生かしたらどうかという話がありましたが、私も良いことだと思います。特に今は車社会ですので、車を足代わりに使っているから、その車をやめてバスを使うというのはなかなか難しいことだと思います。それまでしてバスに乗らないかんという論法もちょっとどうかと思います。ということだと高齢者の方、車の運転ができない方、そういう方が一番バスに乗りたいという希望を持っている方だと思うんです。大口町には公共交通機関がないということは皆さん理解していらっしゃるんですけど、そういう高齢者の方がどんどん増えていくわけですので、高齢者のニーズを考えて、そういう方に合わせてコミュニティバスを運行していく。そのためには、時間帯もいろいろと細やかに作らないといけないかもしれない。それから当然赤字になる。そういうことは、ある程度町も覚悟して出していただきたい。その代わり、高齢者の方にも利用時間を決めて、何でも希望どおりというのではなく、何時から何時とか、あるいは何日とかいうように決める。

それから、高齢者の方、75 歳以上とか 70 歳以上とかいろいろ基準があると思うが、支援という中で町の方で折衝していただいて、バスに乗って買い物に行くと多少の割引が得られるというプラスアルファも考えていったらどうかと思います。

地域振興課長（平岡寿弘） ご提案いただきました。それぞれの立場で取り組んでいく必要があるのかと思います。ショッピングセンターとかの割引という話も出ました。そういう場面の中で、行政だけでやるんじゃないくて、いろんな連携が必要かと思うんですけど、連携という中で、住民活動を展開されている森垣さん、何か新しい展開とか、アイデアがあればお願いします。

バスサポ隊（森垣千穂） 私は「乗ることの付加価値を高める」と書いたんですが、これは、バスを単なる移動手段としてだけではなく、乗ること自体を目的としていただけるような、乗って楽しいとか、快適であると思っていただけるようにしていくという工夫が大切だと思ひまして、バスサポ隊はそのような目標をもって活動しています。

最近バスに乗っていただいた方はお気づきになったと思いますが、折り紙サークルの織姫さんに作品を提供していただいて、節分とか、干支とか、くす玉の飾りをバスの中に飾っているんですが、それを見た乗客の方から、「あの作品を作りたいので、織姫に入りたい」と問い合わせがあったと伺いました。バスの車内を、このような作品を作っていच्छるサークルの方にギャラリーとして活用するのもいいと思いました。お子さんの習字とか、絵画などの作品、あるいは今流行りのサラリーマン川柳、女子会川柳などを飾っていただいて、バスに乗っている間は結構暇だと思うので見ていただけるのではないかと、そういうこともアイデアではないかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） バスに付加価値をとということです。ソフト面の事業が中心になってくるかと思っています。

余野区（近藤清二） 今話を聞きながらちょっと思い浮かんだんですが、昨日名古屋市で SL が走りまして、あれはまさしく乗ることを目的に全国から 100 倍という応募があったものですから、バス自体をレトロなものにするとか、そういうことはいかがでしょうか。

地域振興課長（平岡寿弘） レトロなものというアイデアをいただきました。

会場の皆さんで何かこういうものはどうだというアイデア、身近なところで実践してみたらどうだというものがあれば、せっかくですので、どうですか。

＜挙手する者あり＞

地域振興課長（平岡寿弘） はい、どうぞ。

傍聴者 A 私は余野の者ですが、現在ちょっと体が不自由になっています。私の家の前に大きなバスが走っていますが、多く乗って 5、6 人でしょう。なぜ乗らないかということ进行分析してほしいです。私もこういうふうになる前には、ほとんどバスを利用していました。お風呂も毎日利用していました。ここに来る時は、今は子どもが退職したので子どもの世話になっています。しかし、世話になれる人はいいが、高齢化社会に向かって、車に乗れない、こちらの方も免許を持っていたが今年の 1 月から車を売ってやめました、こういう人がだんだん増えていくわけです。

誰かおっしゃっていましたが、もっと近くで乗れるようにしてください。これはテレビでやっていましたが、足助の方では手を上げるとバスが止まってくれる。名鉄バスですよ。年寄り荷物もある、歩くこともできない、そういう身にならないと分らないです。

ここの風呂に来るにも、ここにバス停がないです。向こうにはバス停があります。雨が降ったり雪が降ったりしたら来られないです。ここに、バス停を作してほしいです。お願いします。

地域振興課長（平岡寿弘） それぞれの場面での考え方があると思います。高齢者、特にこれからの時代を見据えてということのご発言だと思います。

伊藤さんが他市町のシステムについて書いておみえでしたので、よければその辺りについて少しお話してください。

議会議員（伊藤 浩） 私は一度もコミュニティバスに乗ったことがなかったものですから、自分のパソコンでいろいろ勉強させていただきました。大口町は 15 人のバス 1 台と 37 人乗りのバス 3 台の 4 台で回しているんですが、どうも大きな道路ばかり回っている。できれば 1 台ぐらいは小回りの効く 9 人乗りぐらいのワゴンで回って、停留場が近くにない方も利用できるような、狭いところも回っていけるような乗合タクシーとか、乗合ワゴンが導入されるといいと考えて、全国の事例を調べてみました。そうすると、こういうことを導入しているところが結構あるんです。愛知県では武豊町、そこでは現在、予約制の乗り合いタクシーというものを試行中というこ

とで、1 年間試行した結果でそれを導入するかどうか決めていくそうです。それから、奈良県三郷町でも現在実施しています。大口町は狭い地域ですので、広い地域とは異なりますので、完全にまねをすることはできないと思いますが、検討する価値は十分にあると思います。

先ほども余野の吉田さんが言われましたように、やはりお年寄りで、町の福祉施策としてタクシーチケットが出る方もありますが、チケットの出ない方や、お年寄りだけで住んでいる方にとっては、とてもいいことだと思います。

東京大学のデマンド交通の資料を見ると、先ほど木野区長さんが言われましたけど、とにかくコミュニティバスを運行している全国の自治体の 99.9%は赤字だそうです。それでもやっぱり、地域住民のために役に立つような交通網を整備することが一番大事だと思います。

そういうことをやっている自治体もあるということを紹介させていただきました。

地域振興課長（平岡寿弘） それぞれ取り組まれている事例があると思います。今財政的な話も出ましたけれども、町長さん、財政的なところでお話しいただけますか。

町長（森 進） 先ほども話がありましたが、大口町の町民の皆さんの生活の実態をみると、平均して一家に 2 台ぐらいの車の保有があるんじゃないですかね。そういう中で、それぞれの家族の方が一番都合のいい、ベストな状態で移動してみえるというふうに思うんです。そういう中で、公共交通機関としての巡回バスとして大口町でスタートしているので、ダイヤ、ルートに沿った形でバスを利用していただけ、また、利用いただけるにはどういうアイデアが必要なのかということで今日お聞きしているわけです。一番ベストな生活から、ある程度制約を受ける形に生活を変えなければならないということ、それでなおかつ、バスを利用していただけ、その中には、我々の生活の中で身近なものにしていくということが重要かと思いますが、大口町の巡回バスで、収支トントンで運行できることは当初から想定になかったんじゃないかと思います。さけれど、行政全般に係る経費を考えたときに、今の 3,000 万円が適正かどうかということも含めて、一つの事業に利用者のニーズだけを最優先させて町費を投入していくことが、行政全般のことを考えると非常に難しいと思っています。

ですから、皆さんのアイデアと皆さんの協力でバス事業を根付かせていけたら、また、いかなきゃならんと思っています。単に財政的なことだけで判断しているわけではありませんが、財政のことを全く無視して、バスの運行だけを優先させることも現状難しいと思っています。

余野区（近藤清二） 今のお話の中で町の負担 3,000 万円ということで、コミュニティバスは人に乗せることになっていますが、ちょっと無謀かもしれませんが、空の状態であれば物を運ぶことも、アイデアの一つではないかと思ったんです。具体的にどういうふうにとはちょっとまだ思いが至っていませんが、宅配業者と連携するとか、郵便物なんかを起点になるところまで運ぶとか、そういうことができれば、企業からの収入ということで、収入として増えるんじゃないかということも考えてみました。

地域振興課長（平岡寿弘） 今のご提案ですけど、運営のあり方、今は行政直営でやっていますが、そういう民間の活用というところの兼ね合いかと思っているんですけども、この辺りについて武田さんどうですか。

垣田区（武田静雄） 今日の中地域という地域で、先行き地域自治組織を作るとということで、私も準備委員をやらせていただいています。そういう組織も含めて、共同経営のような形で、全国あちこちで第三セクターみたいな組織を作っているところもありますが、そこが運営し

ていく方法もあるんじゃないかと思います。だから、もう少し進めて、個人でも団体でも地域でもいいですが、例えば中地域として出資する。大口町全体の中から出資者が集まって、一つの企業体を作って、純粋な民間ではないですけども、そこが主体となってバス事業を運営していくのも一つの方法ではないかと思います。難しい問題があって、それぞれ利害関係が違いますので一朝一夕にはいかないと思いますが、そういうことを考えてもいいんじゃないかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 武田さんから個人でも団体でもどうかという話が出ましたが、どなたかありませんか。

余野区（近藤清二） 個人でも企業でも自治体でもそうなんですが、先ほど運行経費の説明があったんですが、運行経費で 5,600 万円掛かっていて、収入等、補助金を含めて 2,300 万円、残りの 3,300 万円が町という、ここをやはり改善しないとイケないんじゃないかと思うんですね。

地域振興課長（平岡寿弘） 改善というのは。

余野区（近藤清二） やはり収入を増やすということですね。どうやって収入を増やしていくかということです。だから、それは個人であっても民間であっても同じというか、どちらにしても民間といっても純粋に民だけで運営はできないと思いますし、どこかで行政の負担は出てくと思うんですね。

地域振興課長（平岡寿弘） 今、民間、団体等の話も出ましたけれども、町長さん、今の運営のところでご意見あればお願いします。

町長（森 進） 平成 15 年 3 月にスタートした大口町の巡回バスは、その時点から既に一つの目標の中にあったのは、町が直接の実施主体になっていくということではなくて、町から民間に移行していくというのがスタートの目的にあったわけでありまして、今、話があったその話を含めて、10 年の経過が節目というわけではありませんが、ここ 2 年の状況を見ていますと、利用者の状況、さらには町職員による営業での企業との連携、こういうようなものにもある程度先が見えてきたと、私は受け止めています。そういう中で、いよいよ民間へ移行させる時期としては、ここ近いうちに、そういう方向付けをする時期なのかと思っています。ただ、今まで 10 年の実績がある。なおかつ、年間 12 万人の利用があるという現状を重く受け止めて、民間での移行の中で、町が財政的な支援を含めて、今後皆さんの意見を聞く中で、あるいは議会と相談する中で検討していかなければならないことだと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 財政的なことも含めていろいろな方向性を検討していく中で民間のノウハウを活用していく、それは冒頭ありましたようないろんなサービスの水準、バス停のこともそうでしょうし、そういうものも民間活力を活用していくことも必要なかと思っています。そうした中で、今いただいた「地域全体で考えていこう」ということも必要だと思っているんですけども、ちょっと戻った形ですけども、一つのキーワードとして「地域で」というキーワードが出たんですが、武田さん、繰り返しになりますが、地域でやっていこうというところで、もう少し掘り下げてお話ししたいかと思います。

垣田区（武田静雄） 地域自治組織ができます。その地域自治組織の一つの仕事として、事業としてこういうものをやっていけばいいんじゃないかと思います。まだできていないのにこういうことを言うのは非常に僭越なんですけど、たまたま地域自治組織の設立に向けて携わっている人間として少し先走ってしまうかもしれませんが、そういう組織ができたときに、そこで行う事業として考えてもいいんじゃないかということです。ですから、今の時点でこういう話をするのは少

し早いかなと思いますが、いずれにしても近い将来必ず地域自治組織はできます。大口町の中に三つの自治組織ができます。南地域、北地域、中地域。中地域というのが、さつきケ丘と余野と垣田の3区が一つになって中地域の地域自治組織をつくるわけですが、そういうものが出来上がったときには、当然事業として考えていかなくちやいけないことがあるんですけれども、そういうテーマとしては、バス事業というのは最適なテーマと考えます。だから、本当はもう少し後の話だと思います。だけど、当然考えていく話だと思います。

地域振興課長（平岡寿弘） 武田さんのご発言について何かご意見がございましたら、どうですか、鈴木さん。

さつきケ丘区（鈴木 進） 事業といっても、ボランティアの事業とお金を取ってする事業、いわゆる免許というか申請というか、そういうものがあります。考え方はよく分かるんですが、バスに関しては、お金を取っても取らなくても他人を乗せる、事故がある、その時に補償はどうなるとか、非常に大きな問題になると思うんです。

垣田区（武田静雄） だから少し早いかなと…

さつきケ丘区（鈴木 進） 早くても遅くてもいいんですよ。地域として、私はその辺は素人ですが、そう簡単にいけるかなと思います。

それと、朝のために大きなバスが走っている。昔はもうちょっと小さいバスで、バス停近くなるとバスが来たことが分かるように音楽を流していたんですが、朝のために三十何人乗りのバスを、経費のために昼もやっておられると思うんですけれども、昔みたいに小さいバスを増やすと、非常にいいと思います。

武田さんが言われた地域というか、民間ということになると、そんなに簡単にできるかどうか…

垣田区（武田静雄） だから、考えなければいけないよということであって、…

さつきケ丘区（鈴木 進） 私が言うのは、そういうこともいいんですが、ボランティアと人の命を預かるということが、認可をもらうにも相当苦労して…

地域振興課長（平岡寿弘） すいません。少しヒートアップしてきたみたいですが、これが本来の座談会かと思っています。こういう形がもっと続けばいいんですが、時間もちょっと押してきていますので、…。

はい、吉田さん。

余野区（吉田三千子） いろいろなご意見をいただきまして、一番初めに私が乗らないといけな

いと思いました。そのためには、大口町のワンコインが魅力です。これが高くなったら、やっぱり年寄り

は小遣いが少ないので、乗れないかもしれません。ワンコインで継続していただくためには、人命も大切

ですし、大きい、小さいも大切ですが、私が一番やってほしいことは、現在のお年寄りが明日からでも乗って

くださるように、いろいろ町内で調べて、今までは嫁さんに柏森駅まで送ってもらっていたものが、これがあ

れば乗ってみようと思う年寄りを啓蒙したいと思います。そのためには、いろいろな会で、区で会合があ

れば区に来て説明してもらったり、集まりがあれば集まりにでも、あるいはお茶を飲みながらでも、多少なりとも役に立つ話が出るようになるとこれからの老人は助かるんじゃないか

と思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

<傍聴者から挙手>

地域振興課長（平岡寿弘） そちらの方で手が上がりましたので、どうぞ。

傍聴者B 余野区の吉田です。一つ提案したいと思いますので、真剣に大口町の方は取り組んでいただきたいと思います。皆さんも見られたかどうか分かりませんが、大口町の各家庭に年 1 回路線マップが配布されていると認識しています。それは正しいと思います。そこに、すべての町民の方が 1 回は体験するように無料の利用券を、ご家族 2 名とすると往復で最低 4 枚付けていただいて、1 回はすべての町民の方が乗ったという状況をつくるべきだと思います。

そうすると、路線を改良する、時間を改良するというようないろんな意見がいろんな場面に出ると思います。余野は近いので駅までは乗らなくても歩いていけばいいとか、いろんなことが出るといいますので、そういう声を大口町の皆さんが集めていただいて、我々も集めてもいいんですが、次の政策に生かすというためにも、全員の方が乗るというのが、まず一番大事なことだと思います。

地域振興課長（平岡寿弘） 今そういうアイデアをいただきました。情報を収集することかと思っています。それを実践していく必要があると思います。ただそれは、行政だけじゃなくて、皆さんにもご協力をいただく中で、そういうものの展開ができればと思っています。

ちょっと取りとめのない話になっていますが、最後に厚生病院のことについてご意見をそれぞれお話いただければと思います。時間が押していますので、吉田さんから手短にお願いします。

余野区（吉田三千子） お陰さまで病院へ入っていませんのでよく分かりませんが、さっきも言ったように、河北の人と外坪の人は、駅で扶桑町と一緒に合体して乗って行ってもいいし、駅まで送ってもらえば厚生病院へ直通で行くのがあると大変うれしいとおっしゃっていました。

余野区（近藤清二） 厚生病院までというのは特定の目的地への運行になりますので、それが住民全体にとってどれくらいのニーズになるのか、その辺りをよくヒアリング等して考えるべきだと思います。町は扶桑町、江南市との連携なら考えてもいいよという見解を持てますので、今のところはそれでいいんじゃないかと思っています。

垣田区（武田静雄） 実際にこの間試乗したことがあるんです。乗り継ぎが非常に不便です。もう少し江南駅に近いところ、名鉄バスに乗り替えるところにロータリーがありますので、そこまでぐらい大口町のバスが入れるともっと利用しやすくなると思います。

垣田区（飛沢峯男） 町議会で名鉄バスを利用すれば病院へは行けますという答弁をされていると書いてあります。実際、昨年 11 月に利用したんですが、病院へ行くには 2 回の乗り換えがある。時間がかかる。ロスがある。我々はまだ足が丈夫なので歩けますが、ある程度高齢者になって足腰が弱くなると体力的な負担がかかるということで、シャトルバスをできればお願いしたいと思います。

さつきヶ丘区（木野 宏） 私は高齢者のニーズが高ければ、いろいろ乗り継ぎが多いとか待ち時間が長いとかハードルが高い面もありますけど、もちろん赤字がついてまわります。そういうものもいいよということになれば賛成します。

さつきヶ丘区（鈴木 進） 町の回答としては、町単独ではなく広域の中で検討したらどうだと、それなら協議の対象になりますと書いてありますが、ぜひ、江南市と扶桑町といい考えを出して、ぜひ直通に近い路線を確保してもらいたいと思っています。

議会議員（伊藤 浩） 私も、江南市と大口町と扶桑町で十分協議されて、費用負担の割合を決めて、可能ならば早期実現をしていただきたい。これをやっているところが少なく、私がパソコンで調べても 1 か所しかなかったんですけど、ちょっと実態が大口町とは違うんですけど

も、和歌山県の熊野市と御浜町、そこは紀南病院線という路線を熊野市 7、美浜町 3 という負担割合でやっています。もし可能ならば実現していただけるとありがたいと思います。

バスサポ隊（森垣千穂） 江南厚生病院と小牧市民病院への要望が高いというのは、アンケートから裏付けされていますので、一度、路線を延長するコストと予想される乗客数を比較して、大口町の事業として成り立つものであるかどうかを事業設計して、それから話し合ってみてもいいと思います。

バスサポ隊（吉田和江） 確かに直通があれば便利ですし、ご要望もあると思いますけれども、それよりもまず町内を充実させていくことの方が、大勢の方が利用するには大事ではないかと思っています。

町長（森 進） いろいろアイデアをいただいたんですが、そのアイデアの中には一時的な対応のものと常時やれるようなこともあるのかなということでお聞きしていました。

一つ紹介をさせていただきますが、大口町の巡回バスの運行については、ダイヤ改正さらにはバス停の位置については、住民の皆さんの声、具体的にはアンケートなどを取って変更を活用させていただいているというのが現状です。ただ、一度バス停を定めると、利用するとか利用しないにかかわらず、そのバス停が移動することに対する抵抗感が非常に強いんです。私どもは根拠なしにバス停の移動をするものではありませんが、その辺りもう少し我々と同じように、住民と身近な巡回バスになるにはそういうことも必要なかと思っています。

それから、広域での取り組みの例になるのかどうか分かりませんが、救急病院のことで、このあたりでは江南厚生病院、さくら総合病院、犬山中央病院、この三つが救急の指定病院になっているようで、その三つの病院が順番で休みの日も患者さんを受け入れる状況になっています。その利用状況を聞いてみますと、特に江南厚生病院の利用状況を聞いてみますと、やはり地元の江南市が一番多いんです。その他に一宮市、少ない数字ではあるんですが、川を越えて各務原市からも搬送されている。何が言いたいかというと、救急病院の運営に尾北医師会、岩倉医師会が財政的な支援をしているんです。尾北医師会、岩倉医師会というのは、犬山、江南、大口、扶桑、岩倉ですから、この近辺の 3 市 2 町で三つの救急病院の運営の財政的支援しているのが現状です。ところが、江南厚生病院の実態を見てみますと、一宮市、各務原市からも利用があります。救急ですので、そういう利用があって生命の維持ができることであればそれに越したことはないし、それを拒むものでもないが、今まで私どもの地域の中の安全・安心を担保するために、それぞれの市町が財政的な支援を何十年も枠組みの中で支援してきたが、枠組みそのものを見直して財政支援をしていくということを根本から考え直さねばならない状況に変わってきていることを思います。そういうことが、このバス利用についても言えるかも知れません。

先ほども吉田さんが言われたように、この辺りでは一番小さな町で、なおかつ交通機関がないという状況の中で、大口町が独自に地域の皆さん、企業の皆さんの協力を得て、ここまで 10 年間バス運行してきたのが実態としてあるものですから、大口町の中の利用を増やしていただく、大口町の町民の皆さんに少しでも満足していただけるバス運行を第一に考えるべきだと思っています。確かに、江南厚生病院、小牧市民病院、犬山中央病院へ行きたいという、利用を希望される方があるというふうに思いますが、それらを含めて、大口町のコミュニティバスに全部を託すという形でのバス運行は、今の大口町の状況からは、いろんな面で難しいというのが私の考えでありまして、まずは大口町の町民の皆さんの身近なバスになってもらう、そのために町民の皆さん

にも、今日いただいたアイデアを取り入れる中で、一人でも多くの皆さんに利用していただく、さらには企業の皆さんにも活用していただくことが、第一優先ではないかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） ありがとうございます。予定しておりました時間がまいりました。それぞれ貴重なご意見を賜りました。また、傍聴の方からもご意見を賜り、ありがとうございます。

余野区（近藤清二） 今日の会合というのは住民と行政の参加ということなんですが、ここにプラスアルファで企業の方を、今後、三者で協議する場を設けられるといいと思いました。

地域振興課長（平岡寿弘） 企業というのは…

余野区（近藤清二） 町内の企業です。賛同をいただくという意味も込めて。

地域振興課長（平岡寿弘） これはやっていけることかと思いますので対応させていただきます。今日いただいたアイデアを整理した中で生かしていきたい。冒頭申しましたように、大口町の財として皆さんに活用していただけるのが本質かと思っています。今日いただきましたご意見等を参考にさせていただいて、施策を展開していきたいと思っています。

最後になりますが、傍聴者の方にはアンケート用紙をお配りしてあると思います。そちらにご記入いただき、ご意見を賜る中で運営等に生かしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。これで座談会を締めさせていただきます。参加者の皆さんありがとうございました。

地域協働部長（杉本勝広） 本日は長時間に渡り大変ありがとうございました。最後になりますが、本日のテーマに対して、あるいは地域懇談会のあり方について、皆様からご意見をお聞きたいと思っています。恐れ入りますが、本日受付でお渡ししたアンケートにご記入いただき、出口の回収箱に投函していただければ幸いに存じます。

これを持ちまして本日の地域懇談会を終了させていただきます。

なお、お帰りの際は交通安全に気を付けていただきますようご案内申し上げます。